

1・2日目はデイサービスで体験させていただき、コミュニケーションをとることの大切さを学んだ。さらに、ただコミュニケーションをとるだけでなく、視線を合わせ、自分から積極的に話しかけることが大切だと感じた。また、反応が無くてもある程度は継続的に話しかけることも必要ということが分かった。

3・4・5日目は特別養護老人ホームでの体験で、デイサービスとは違い、ほとんどの日常生活において介護が必要であり、利用者の方も1日中動かないという生活であった。前日までコミュニケーションの大切さを感じていたが、コミュニケーションが取れない人も多く、話しかけることに勇気がいった。さらに認知症についての知識も無かったので、どのくらいまで助けてもいいのか、話しかけてもいいのかなどが分からず、迷ったこともあった。もう少ししっかり調べておけばよかったと感じた。しかし、ここでも根気よく話しかけること、時間をかけて話し、行動を共にし、慣れることも大切だと思った。

特に印象に残ったのは、利用者の方は1日の記憶もあいまいな人がほとんどであったが、やはり施設の人々と私達実習生では違い、関係が浅いと話を聞いてくれないが、深い人の話では聞いてくれたり、言葉では言えなくても、気持ちは繋がっているのだと思った。

また、利用者の方の気持ちには、日々ムラがあり、気分がいいときもあれば、よくないときもある。その時に、一言のみや表情で気分を見極め、そのあとの対応を変えるということも大切で、それによってその後の行動に影響が出てくることもある。

これは介護の現場だけでなく、普段の生活でも気をかけるべきことだと感じた。

この体験を通して、やはり生きていくうえで1番大切なのは「コミュニケーション」だということを再認識することが出来た。

以上